

合同企画展

水俣湾再生にたずさわった人たち

「水俣湾公害防止事業」その時 人はどう動いたのか！

「水俣湾公害防止事業は普通の事業ではない」

「事業は地域の人たちの安心のためにある」

「とれた魚を売れるようにしたい」

「失敗は許されない」

「水銀混じりのヘドロをそのままにはおけない、工事をやろう」

水俣湾公害防止事業は世界で初めての困難な事業だった。

そこには失敗は許されないという思いで、事業をやり遂げた人たちがいた。二次汚染の恐れが強いと工事に反対する人たちもいた。

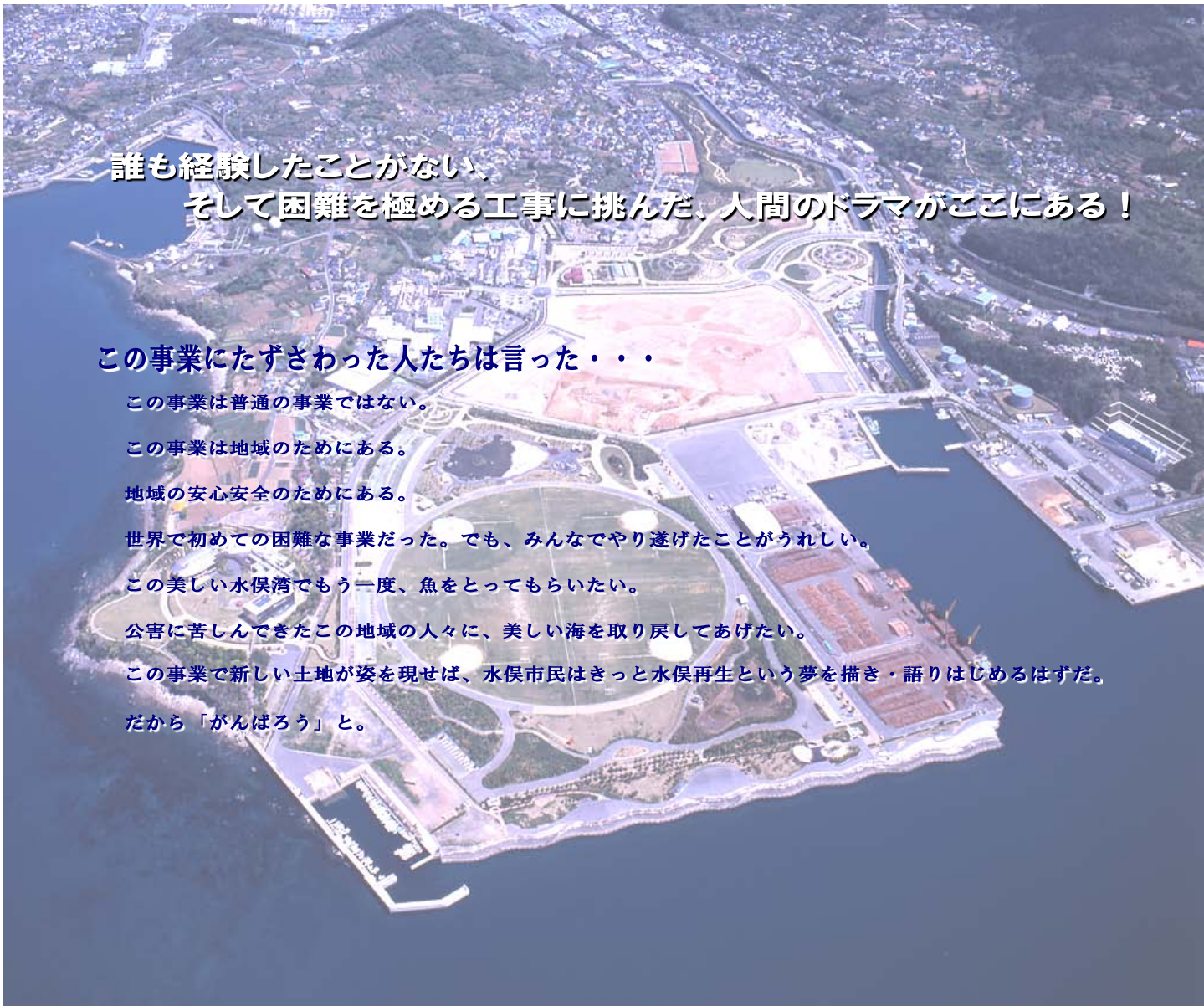
工事差止仮処分の申請がなされ、熊本県は着工を延期し、2年半に及ぶ科学裁判に答えていった。

着工可の裁決があり、工事が進んだ。市民は現れてきた土地に水俣再生という夢を描き始めていった。

水俣湾公害防止事業にたずさわった人たちには、様々な思いがあった。でも、共通していたのは「水俣湾再生」への思いだった。

歴史とは優れて人間学であるという。

次につなぐために、水俣湾公害防止事業の困難な場面で、人はその時どう思い、どう動いたのか、伝えたい。



誰も経験したことがない、

そして困難を極める工事に挑んだ、人間のドラマがここにある！

この事業にたずさわった人たちは言った・・・

この事業は普通の事業ではない。

この事業は地域のためにある。

地域の安心安全のためにある。

世界で初めての困難な事業だった。でも、みんなでやり遂げたことがうれしい。

この美しい水俣湾でもう一度、魚をとってもらいたい。

公害に苦しんできたこの地域の人々に、美しい海を取り戻してあげたい。

この事業で新しい土地が姿を現せば、水俣市民はきっと水俣再生という夢を描き・語りはじめるはずだ。

だから「がんばろう」と。

水俣市立水俣病資料館「語り部の会」/水俣市立水俣病資料館 合同企画展

水俣湾再生に たずさわった人たち

「水俣湾公害防止事業」その時 人はどう動いたのか！

事業の途中、二次汚染の恐れを持つ人々から工事差し止処分がなされ、熊本県は工事を中止しました。しかし、その間に工事を安全に進める研究が進展することになりました。企画展では、工事反対の「反」の意味や、水俣湾公害防止事業をやり遂げた人々取材して、その思いを語ってもらい展示します。

期間 **2007年12月1日 ▶ 2008年3月中旬**

会場 **水俣市立水俣病資料館〈入場無料〉**

〈お問い合わせ〉 〒867-0055 水俣市明神町53 水俣市立水俣病資料館 電話 0966-62-2621 FAX 0966-62-2271

水俣湾再生にたずさわった人たち

No.	タイトル
1	企画展チラシ
2	趣旨
失敗は許されなかった	
3	失敗は許されないと藤木素士たちは思った
4	藤木素士は工事の監視にあたった
5	水銀ヘドロをそのままにはおけない工事をやろう
6	何回も説明した話し合った
7	水俣湾再生にたずさわった人たち
世界で初めての難事業だった	
8	大変だった世界でははじめての難事業だった
9	丸島漁港は熊本県が丸島と百間水路は水俣市が環境復元にあたった
10	四建の水俣分室に額がかけてあった「事極まれば初心に還れ」という意味だった
11	公害防止事業は地域の人の安心のためにある
12	一緒に仕事した仲間の技術者たちはいい加減ではない人、工夫する人、アイデアが出る人、困っても逃げない人、職人、プロだった
13	技術者の良心があった
14	嶺泰宏の語るプレッシャー
15	創意工夫が水俣湾の公害防止事業を支えた。それは子ども時代の遊びで育まれた
議論申し立てがあった	
16	工事の反対運動、異議申し立てがあり大変だった
17	Xデーを延期した、工事を中断した
18	二年数ヶ月の裁判は科学裁判だった
反対の意味	
19	反対の意味、安全に工事する研究が進んだ
20	反対派の意義申し立てで考えこまれた 何のために仕事しているのか
21	ヘドロ処理は二次汚染のおそれが強いと思った・・
22	公害防止事業 反対するのはどうしてだろうと思っていた
23	議論ができたのは裁判だった 納得の過程だった
地域に出よう！	
24	昔とは違う、地域に入り込もう
25	四組のカップルが生まれた
やりとげた そして今	
26	市民は新しくできた土地に水俣再生という夢を描きはじめた
27	やりとげた
28	そして今サンゴがいる 漁ができる
29	食べられるようになった 安全宣言 仕切り網の撤去 漁業の再開
思い出	
30	だから今もみんな水俣に集まる あの頃は・・・
31	佐野和子さん「カコちゃんと呼ばれて、かわいがられて、母親がわりでしたよ、私は」
32	15年半水俣湾に関わって 久間公一
33	水俣湾で捕れた魚を売れる環境にしたかった
34	水俣から水俣へ
35	会いたいなと小松聰明は語るのだった
36	あのときはうれしかった
37	忘れがたし水俣の友よ
気がかりなことがある	
38	気がかりなことがある
39	ここがどういう土地なのか 思い出して欲しい
その他	
41	賞暦
40	名簿
42	記念話会チラシ 『水俣湾再生の思いを語る』
43	新聞記事